新型コロナウイルスワクチン接種についての情報提供

人類に対して初めて使用される遺伝子ワクチンは、まだ治験の途中で緊急使用されているため、効果や安全性の情報が不足しています。接種は強制ではありません。本人が希望する場合のみ接種が行われます。薬品の投与には必ずリスクが伴います。効果とリスクの双方を理解した上で、自らの意思で判断する必要があります。当院では患者様の健康を考え、最新の情報をご提供させて頂きます。判断材料としてご利用頂けると幸いです。

＜効果＞

・重症化予防を期待

※現在、非接種者と死亡率で有意差はない

※あくまで重症化予防であり感染の予防効果は期待できない（厚労省発表）

※日本は接種率世界第３位で陽性者数世界第１位！

※２回以上接種者の方が非接種者より感染率が高い（厚労省発表）

※イスラエルでは３・４回目の接種で日本と同様に感染者、死者が急増。国はﾜｸﾁﾝﾊﾟｽﾎﾟｰﾄを廃止し接種の危険性を勧告したため現在は誰も接種していない。

※予防接種法では非接種者への差別は許されないとの付帯決議が成されている。

＜リスク＞

◎日本における副作用の疑い事例（R.3.2/17～R.4.9/3 厚労省発表）

・死亡報告　１８３５件　→　１８８３件に増加！！（R.4 .10/7）

※平成３０年のインフルエンザワクチン接種後の死亡報告数３件

・重篤な副反応　２３８７９件→２４２９５件に増加！！（R.4 .10/7）

心筋炎、脳血管障害、失明、ギランバレー症候群など

・２回以上の接種後９０％以上に発熱、頭痛、強い倦怠感、関節痛など（これらの症状は報告義務がないため副作用件数に含まれていない）

◎アメリカの状況（2022.10.14 時点　CDC 等発表）　副作用報告数 1442261 人

・死亡　31569 人　・入院　1806915 人　・緊急ケア　137150 人　・心筋炎　53302 人

＜考察＞

先日、厚労省のデータから非接種者より接種者の感染率の方が高いと判明した。すると接種の目的は感染ではなく重症化予防だと言い出した。しかし、大阪府が公表したデータによると、非接種者が感染した際の死亡率は 0.007%であったのに対し、１回接種は 0.033%、２回は 0.007%、３回は 0.011%、４回は 0.005%と、いずれも非接種者の死亡率と誤差の範囲であり、重症化予防効果も疑わしい状態となっている。そもそも、死亡率 0.007%の病気の死亡率を下げることは至難の業であり、死者の平均年齢も 85 歳を超えているため、その予防のために効果不明で治験中の薬剤を身体に入れる必要性があるのか甚だ疑問だ。冷静に考えて行動してほしいと願う。